

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

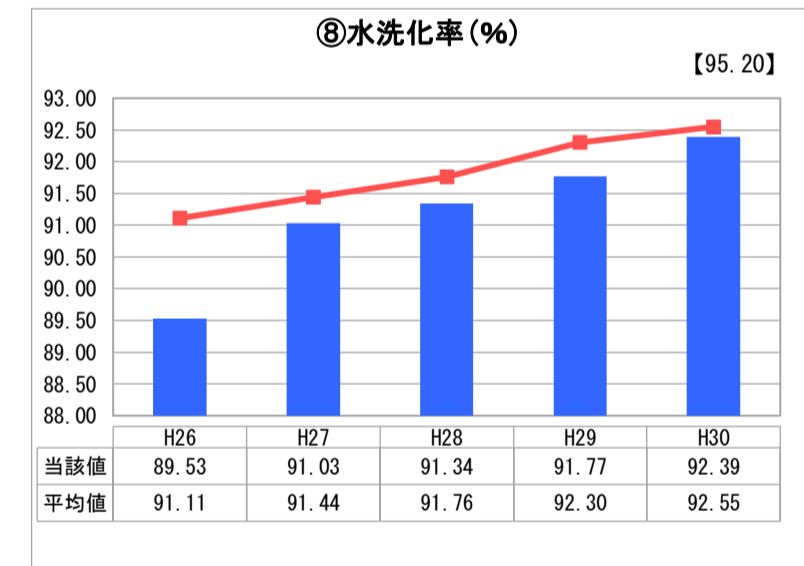
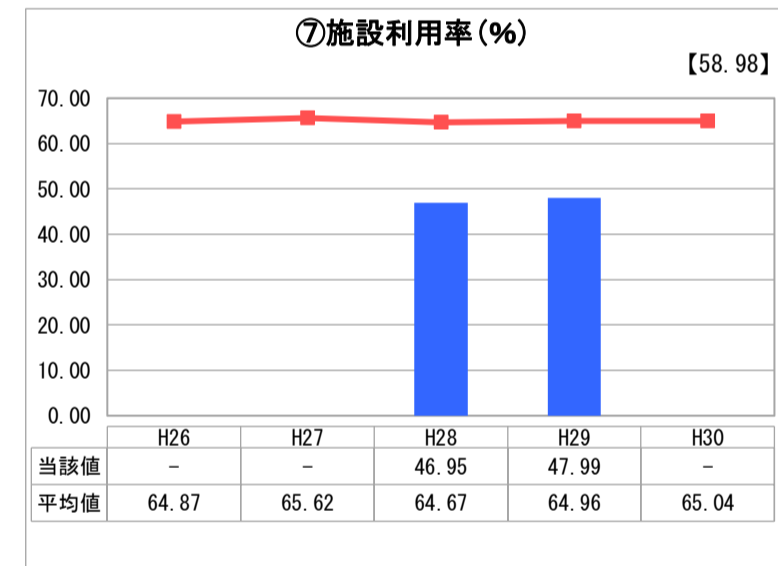
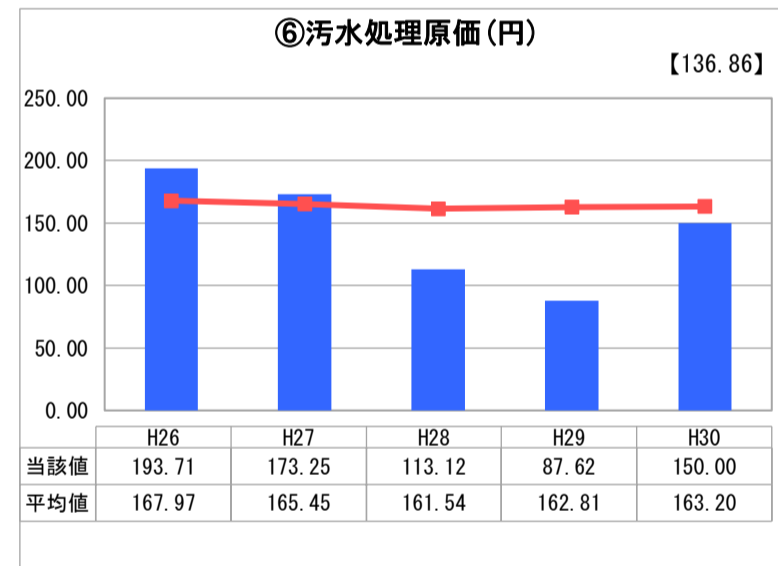
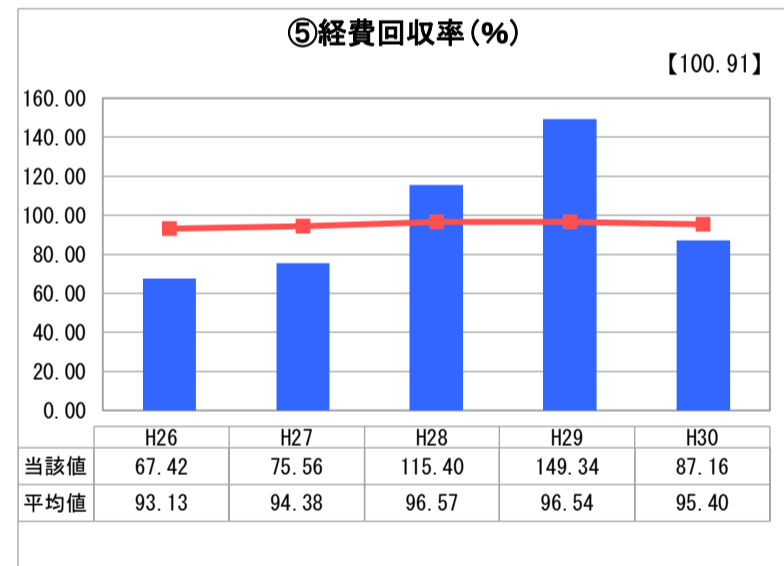
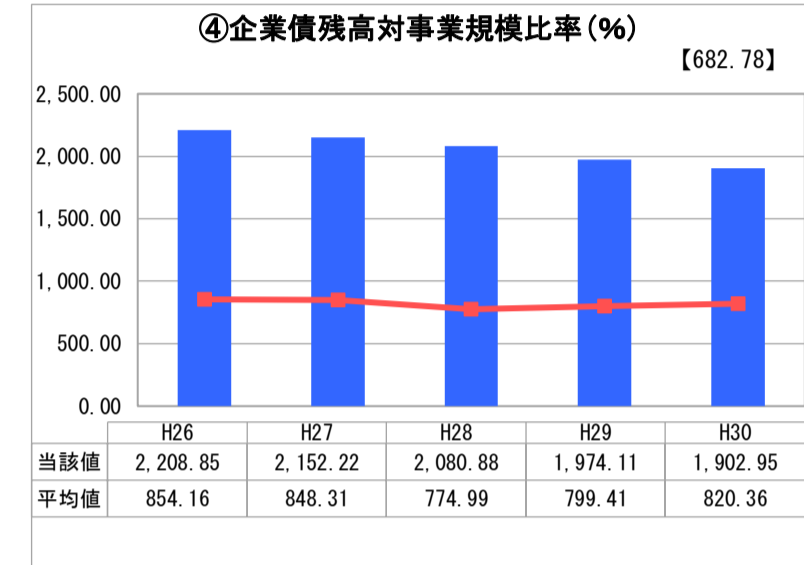
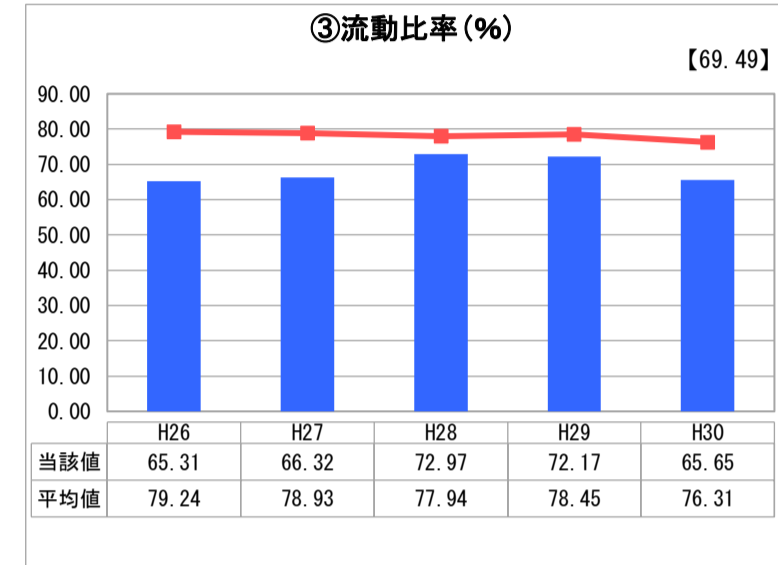
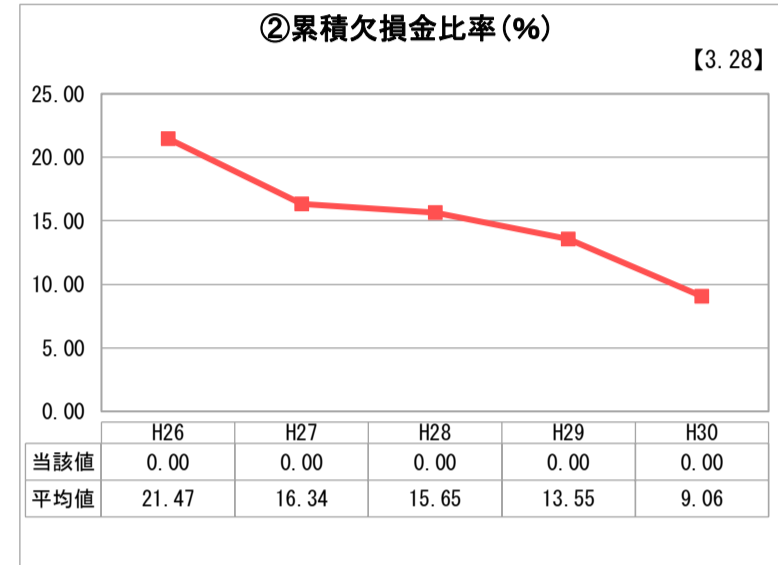
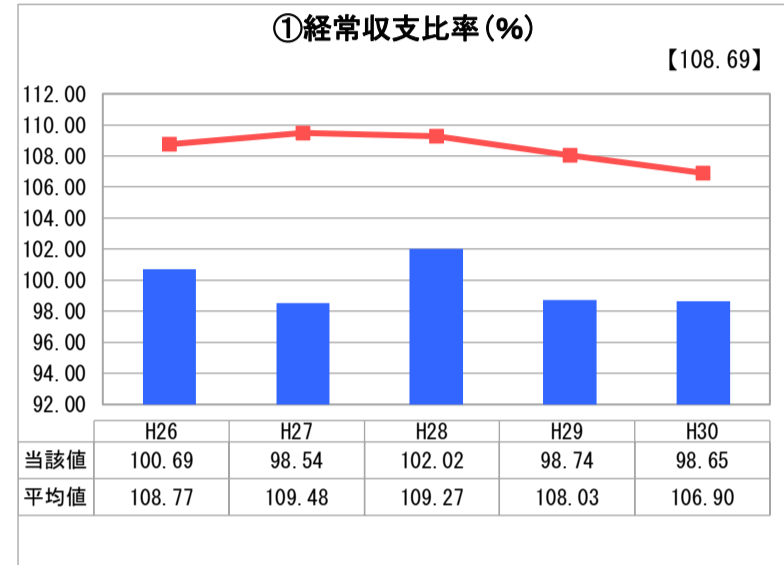
福井県 坂井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	49.26	94.33	84.52	2,484

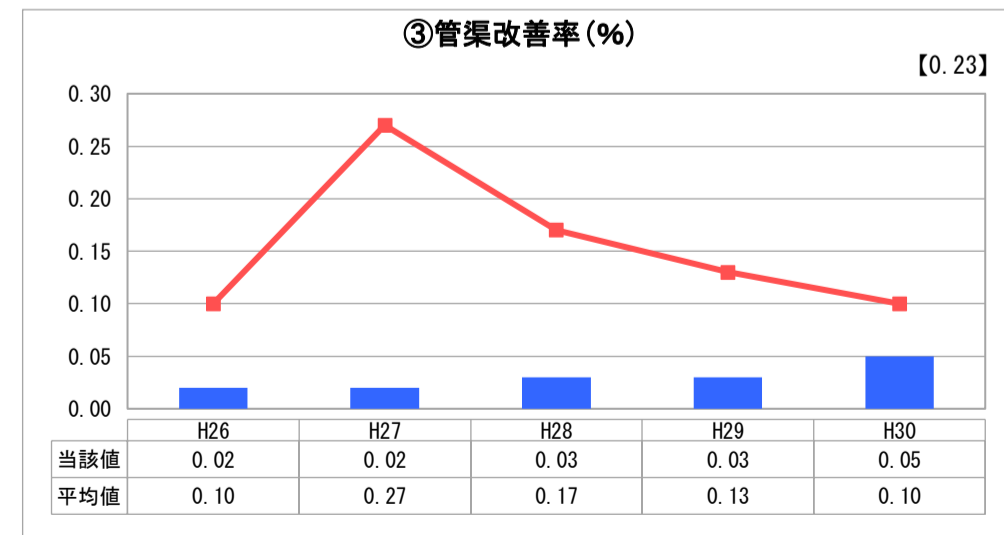
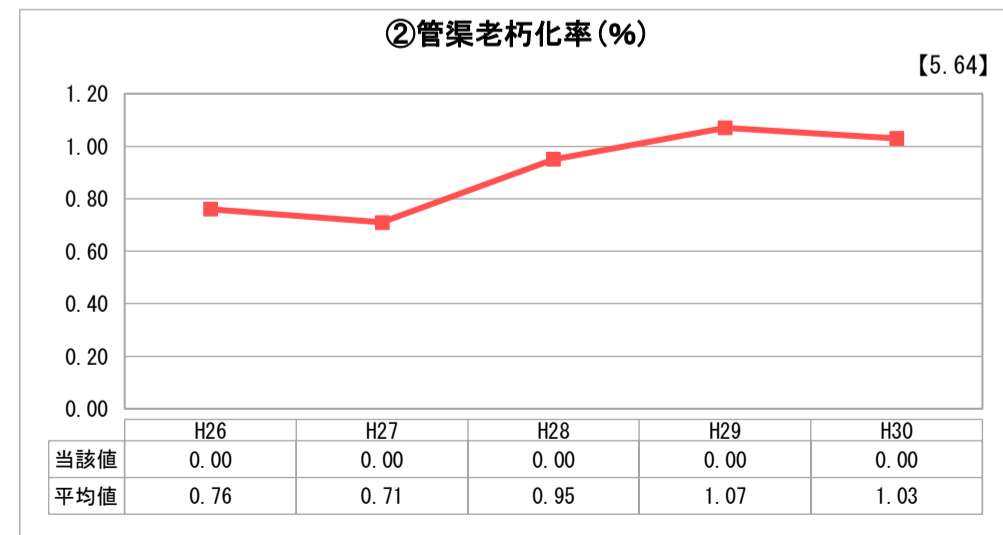
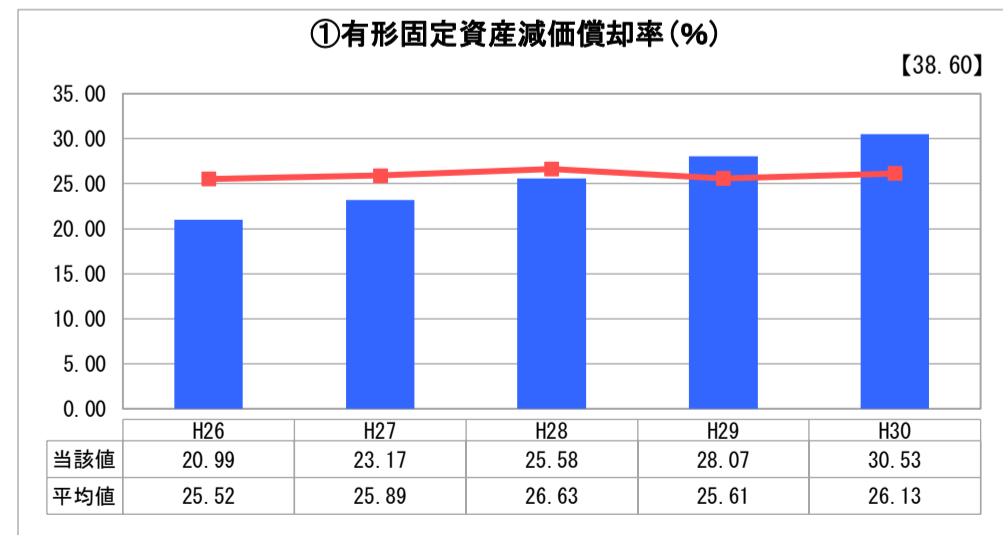
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
92,004	209.67	438.80
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86,442	28.05	3,081.71

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は前年度に続き、当年度も100%を下回った。経常収益で使用者収入の微減と一般会計繰入金の減が原因で、支出は前年比減少したにもかかわらず比率は下がってしまった。② 累積欠損比率は「0」を維持している。③ 流動比率は全国平均を下回り、且つ低い水準にある。これは、依然として続く多額の企業債償還がある為。④ 企業債残高が微減傾向にあるものの、今後施設の老朽化などで更生改築工事にかかる費用を借り入れることを想定すると、数値は再び増加していくと思われる。⑤ 豪雨などの天候異変で処理水量が有収水量に繋がらず、汚水処理原価が上がった。⑥ 本市は終末処理場が無い為、数値は発生しない。⑦ 水洗化率は微増している。下水道整備がほぼ終了し、止まることのない人口減少、高齢者のみ世帯の増加を考えると、水洗化率の大幅な上昇は見込めないが、今後も水洗化促進に努めていきたい。

### 2. 老朽化の状況について

事業開始から40年以上経過しており、① 減価償却率が上昇を続けている。② 本市において法定耐用年数を超えた管がないため、管渠老朽化率は「0」である。しかし、前述のとおり、近い将来耐用年数を超える管が出てくるので、そこからは急速に老朽化率が上昇していく。③ 管渠改善率は微増傾向にある。現在、施設の老朽化、法定耐用年数超えを想定し、ストックマネジメント計画(下水道施設の機能診断と最適な整備構想)を策定中である。これにより、今後施設の効果的な延命処置を行う予定である。

### 全体総括

このまま使用者収入や一般会計からの繰入金減少が続くと、下水道施設の維持管理、老朽化に伴う更生、改築工事等の施行に支障をきたし、延いては市民生活に大きく影響するため早急に対策を講じる必要がある。現在進行中のストックマネジメント計画の策定と令和2年度実施予定の経営戦略策定の結果を踏まえ、使用料金の改定を考えたい。これにより、安定安心で健全な経営を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。